

中国四国支部 2025年日本化学会中国四国支部大会香川大会実施報告

2025年支部大会香川大会

2025年11月23日(日・祝)および24日(月・休)の2日間、徳島文理大学高松駅キャンパスにおいて「2025年日本化学会中国四国支部大会香川大会」を開催した。本大会は、日本化学会中国四国支部の主要行事の1つとして、中国四国地域における化学研究および化学教育の活性化ならびに学生・若手研究者の育成と学術交流の促進を目的として実施されたものである。高松駅前という優れた立地条件と、開設間もない最新設備を備えた都市型キャンパスという環境の下、563名の参加者を迎え、盛会のうちに終了した。

本大会では、化学全般を対象とする一般口頭発表およびポスター発表を中心に、日本化学会会長・丸岡啓二先生による特別講演、若手研究者による招待講演(10件)、さらに併催企画として化学教育研究発表会を実施した。研究発表は有機化学、無機化学、物理化学、生物化学、分析化学、高分子化学、化学教育など多岐にわたり、基礎研究から応用研究、教育実践に至るまで幅広い内容が報告された。発表会場では終始活発な質疑応答が行われ、分野横断的な議論や新たな研究視点の共有が促進された。

本支部大会の大きな特徴である「学生参加費無料」の方針は本年度も継続され、多数の学生、大学院生、高校生の参加を

得ることができた。若い世代の研究者にとって、自らの研究成果を発表するとともに、近隣大学・研究機関の同世代研究者の発表や議論に直接触れる機会は極めて貴重であり、研究意欲の向上および将来の学術的発展に資する重要な教育的効果をもたらした。実際、会場では世代や所属を超えた積極的な交流が見られ、本大会の趣旨である人材育成と学術交流の目的が十分に達成されたと考えられる。

大会1日目に実施された会長特別講演は、「合成後期段階の官能基化を目指した新規有機ラジカル触媒の設計」というタイトルで講演され、極めて高い関心を集めた。また、若手招待講演では新進気鋭の研究成果が紹介され、将来の中国四国地域の化学研究を担う人材の活躍を強く印象づけるものであった。併催された化学教育研究発表会においては、教育現場に根ざした実践的報告や新たな教育手法の提案が行われ、研究活動と教育活動の有機的連携の重要性が改めて確認された。

さらに、本大会ではBCSJ賞、Chemistry Letters Young Researcher Award、学生優秀発表表彰、優秀講演賞、優秀ポスター賞、高校生・高専生優秀発表賞等の顕彰を行った。受賞発表はいずれも学術的独創性、論理性、発表技術の観点においても高い水準を示しており、若手研究者の研究活動を奨励するとともに、本支部大会の教育的意義を象徴する成果であった。



ポスター発表の様子

表彰制度は、研究者のモチベーション向上および研究活動の質的向上に寄与する重要な役割を果たしている。

本大会の開催にあたっては、多数の協賛企業、関係学協会、後援機関より多大なるご支援を賜った。加えて、実行委員、事務局、会場関係者の献身的な協力により、会期中の運営は極めて円滑に進行した。特に、新キャンパスの利便性、設備の充実度、アクセス環境については参加者から高い評価を得た。

ここに、本大会にご参加いただいた研究者、学生の皆様ならびにご支援・ご協力を賜ったすべての関係各位に深く感謝申し上げます。本大会が、中国四国地域における化学研究・教育のさらなる発展と、次世代研究者育成の一助となることを期待する。

〔2025年日本化学会中国四国支部大会
香川大会実行委員長
石井知彦(香川大学創造工学部)〕

© 2026 The Chemical Society of Japan